

新入生のみなさんへ

京都大学総長 松本 紘



京都大学へ入学おめでとうございます。

大学というこれまで経験したことの無い世界を前に、漠然とした不安や未知への好奇心で一杯のことでしょう。希望を持って前向きに大学生活を始めてほしいと思います。

これから大学で受ける教育はこれまでとかなり異なっています。これまでは正解のある問題を解くための方法や考え方を、用意されたカリキュラムの下で習得することが主な学習スタイルであったのではないのでしょうか。京都大学では、自分をどのように育てるのかを自らデザインし、そのデザインにかなうように進んで学業を修めていくことが期待されています。これは

112年の本学の歴史において、その濫觴（らんしょう）からもちつづけ、大切にしてきた「自得自発」及び「自学自習」という教育理念による学びの姿です。みなさんはこれまで、自分の学ぶ方向や方法を自らでデザインし、実行するという経験に乏しいかもしれません。しかしそのことは心配には及びません。そのために教員・職員が皆さんの「自得自発」及び「自学自習」を助けるために組織化され、みなさんとの対話を待っているのです。京都大学の誇る多様な環境において、これまで考えることもなかった先端的あるいは深遠な知識や研究に触れることを通じて、自らを育ててほしいと思います。

国際会議などで海外の研究者と食事をともしる場合など、彼らが専門のみならず、人文学、社会科学、自然科学のそれぞれに広範な知識を持っていることに驚かされることがあります。幸い、みなさんが学ぶ京都大学は10の学部、12の研究科、1つの学堂、2つの研究部と2つの専門職大学院からなり、自らが専門とする分野以外の知識にも学内で容易にアクセスすることができます。また、カリキュラムとしては国内最大級の多様性をもつ科目が全学共通科目として提供されており、それらを受講することができます。

本学は、上述した多くの学部・研究科に加え、日本最大の研究所・研究センター群を擁して

います。大学院へ進学した場合に、これらの先端分野で研究を進める研究者やそこで学ぶ人々と出会うことは、将来みなさんの人生を豊かなものにするでしょう。学部時代にも是非、自ら進んでこれらの多くの人と出会い、様々な考え方や知識および経験に触れてください。

昨年、本学から益川敏英先生、小林誠先生のお二人がノーベル賞を受賞されました。ノーベル賞を始め、様々な国際的な賞の受賞者の画期的な研究は、30歳前後の若い時期に行われています。このように、若い時期の熱意に満ちた研究はその後多くの成果を生みます。人生を私は木に例えていうことがあります。大木が育つには肥沃な大地が必要です。土地を富ますことなく、外見のみを整え、栄養を与えるだけでは大木は育ちません。自らを肥沃な大地とするために、また人間力を豊かなものにするためにも、これから始まる数年間をみなさんの礎をつくる時期として大切にしてください、是非、自らを鍛え、自らに恃むことができる人（自鍛自恃の人）になっていただきたいと思います。

あわせて、大学における勉学には大学生としての生活基盤の確立が重要です。健康で安全な生活が送れるように生活の場を整えてください。また、大学生はすでに自立した個人であり、社会的な義務および責任が課せられています。好む好まざるにかかわらず、我々は集団の中で生活しています。人とのかかわり方や意見交換の方法をしっかりと身につけるとともに、自らの言動に責任をもち、他人を尊敬尊重することにも心掛けてほしいと思います。

大学生活において悩みを持つこともあるでしょう。その場合には、大学には多くの先輩や教職員がいますので相談してみるものいいでしょう、また、みなさんの相談に乗ってくれるカウンセリングセンターや学生相談室もあります。

最近、グローバル化という言葉を目にする機会は多くなっています。京都大学は世界に開かれています。留学生の友をつくり、世界の文化に触れる機会を楽しんでください。私はグローバル化というキーワードはすでに古くなっており、みなさんが活躍する未来は、地球規模さらに宇宙規模でものを考えた人類生存を真剣に見据える時代となっていると思います。その意味でも、地球資源枯渇の問題や温暖化といった環境問題を自らの問題としてとらえ、その解決に寄与することをみなさん一人一人に期待しています。

京都大学の卓越した教育・研究環境を自らのために利用し、みなさんが有意義な大学生活を過ごされることを総長として願っています。